

MT通信

モラリティ・インフルーメント通信
《WEB版 第1号》

特集内容

写真で語る道徳教育の実践事例 (教師カブラッシュアップVol.2)



モラリティ・インフルーメント・ミーティング事務局
始良市教育委員会

写真で語る道徳教育の実践事例 (教師力ブラッシュアップVol.2)

学校・学級での取組 編

道徳教育に関する年間目標を達成するための取組 ～道徳コーナーの設置～

道徳教育に関する年間目標に合わせたテーマを記入

日記や行事後の感想、道徳の授業の終末に記入した振り返り等。
(学校生活に関するもの)



道徳の授業で使用したワークシート。
(道徳教育に関する年間目標に関連した内容項目)

日記やかじのき作文、道徳の授業の終末に記入した振り返り等。
(家庭・地域に関するもの)

新聞・私たちの道徳・絵本などの関連内容。

具体的な取組

- ◆ 本校では、学級における指導計画に沿って、道徳教育に関する年間目標と努力点（具体策）を学級・学年PTAで話し合い、設定している。
道徳教育に関する年間目標の意識の継続を図るため、各学級に道徳コーナーを設置した。

子どもや保護者の反応

- ◆ 各学級に道徳コーナーを設置したことで、道徳教育に関する年間目標に対する意識の継続を図ることができた。どんな文章を書いたのか、子どもたちや保護者が興味深く見ていた。

道徳教育に関する年間目標を達成するための取組 ～学級における指導計画の作成・活用～

具体的な取組

【4月】

- ・ 学級の実態を基に、学級における指導計画を担任が作成する。
- ・ 学級における指導計画に沿って、道徳教育に関する年間目標と努力点（具体策）を学級・学年PTAで話し合い、設定する。

【5月】

- ・ 道徳教育に関する年間目標について、子どもたち一人一人に頑張りたいことを設定させる。

【7月】

- ・ 学級PTAで、道徳教育に関する年間目標について、努力点（具体策）や子どもの記入した頑張りたいことを踏まえ、家庭・地域で子どもと一緒に取り組みたいことを保護者に記入してもらう。

【9・12・3月】

- ・ 道徳教育に関する年間目標について、振り返りをし、学級PTAで話し合う。

取組の感想

- ◆ 各自の目標や振り返りを記入することで、道徳教育に関する年間目標についての意識を子どもや保護者が継続することができた。もっと早い時期に保護者に示すことができれば、さらに充実した取組になったと思う。

情報提供：(H26) 柁城小

子どもたちの自己肯定感を高める取組 ～1年6組の『笑顔の木』を育てよう～

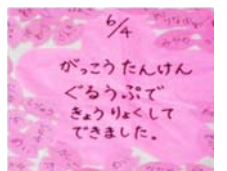
具体的な働きかけ



＜笑顔の花びら＞
個人の名前を記入し、貼り付ける。



＜笑顔の花＞
学級全体でがんばったことを記入し、貼りつける。



- ◆ 毎日の帰りの会の中で「笑顔紹介」という時間を設定している。笑顔紹介では、一日を振り返り子どもたち自身ができた・がんばったこと、友達の良かったこと・がんばったことを発表している。発表された名前を「笑顔の花びら」に記入し、笑顔の木に貼り付けていく。当初は担任が、率先して子どもたちの良さを発表していたが、今では、学級の8割以上の子どもたちの手が挙がるようになった。また、同じ名前ばかりではなく、学級全員のよいところを見つけようと、毎日違う子どもの名前が発表される。言葉で褒められることに合わせて、視覚でがんばりを評価し、翌日へのやる気を促している。

学校行事など学級全員でがんばったときには、笑顔の花を笑顔の木に貼り付ける。笑顔の花の大きさは、行事等によって様々である。笑顔の花が増えると、「やったね」「みんなががんばったからね」と自分たちのがんばりを実感している。また、「運動会、みんなががんばったら、笑顔の花が増えますか」と行事の度に、毎回子どもが尋ねるほど、全員でがんばることの達成感を感じている。笑顔の木が、花と花びらでいっぱいになっていくことが、学級全員の喜びとなり、向上していく集団に育っている。

情報提供：(H26) 建昌小

活発な話し合い活動を通して、一人一人の自主的、実践的な態度を育てるための工夫



具体的な働きかけ

- ◆ 本学級では、学級や学校生活を自分たちの力で充実、向上させ、健全な生活態度を身に付けるために話し合い活動を行っている。

子どもたちに議題を自主的に見つけ出させるために、「みんなで話し合って、良くしていきたいこと」をアンケート形式で書かせ、その中から議題を選ぶようにしている。これまで、「みんな遊びについて」「落とし物をなくすために」などについて話し合ってきた。

司会グループは、全員が1回は経験するように希望者の中から選び、事前に「話し合いの進め方」を見ながら打ち合わせを行っている。また、話し合いの中で、活発な意見が出るように、前日に「学級会記録カード」を全員に配布し、議題についての自分の考えをまとめてくるようにしている。このカードを使うことで、話し合いに対する子どもたちの意識が高まってきているように感じる。

今後、「給食の残食をなくすために」「整理整頓をするために」などの議題について、さらに自主的・実践的な態度を育てる手立てを工夫しながら、話し合い活動を行っていく予定である。

情報提供：(H26) 建昌小

ルールやマナーを守るための家庭の取組

具体的な働きかけ

- ゲームの使用時間を決める、ゲーム類は買わない。
(週末で勉強した時だけ、夜7時まで、宿題が終わってから1日30分、1日1時間以内など)
- 交通マナーの徹底、公共のマナーを身に付けるため公共交通機関を利用する
- お小遣いは手伝いに応じて金額をかえる(例：洗濯たたみ10円など)～欲しい物は自分で貯めて
- 食事を家族一緒にとる～テレビを消す、互いの様子(学校のこと)を知る、会話を楽しむ。
- 「働かざる者、食うべからず」自分の事をやってから夕食を食べる。自分の食器は自分で片付ける。
- 話したくないことは黙っていても良いが、うそはダメと言うことを伝えている
- 返事は0.2秒！(いやいやするのではなく気持ちよくしてほしい)
- 靴を並べる(靴がぐちゃぐちゃでは色々なことがだらしくなる)
- 家に居る人は次に帰ってくる人のスリッパを玄関に並べておく(スリッパでお帰りなさい)
～父親が遅く会えない時も「お帰りなさい」の気持ちを伝える、父の存在をいつも感じる
- 乱暴な言葉づかいはしない、人の心を傷つけない。
- 優先順位を考える、時計を見て行動するようにしているが、自主的に動くのは難しい

情報提供：(H26) 建昌小

ふるさとを愛し、ふるさとを守る家庭の取組

思いや考えの共有

- 地域行事（夏祭り，十五夜，運動会，子供会，資源ゴミの搬出，公園の草取り，清掃作業 等）
- たくさんの友達ができたり，普段は接点のない近所の方と知り合いになれる。
- 地域行事に参加することで多くの方と知り合い子供を覚えたり声をかけてもらえたりする。
- 多くの方々とのふれあい，社会のしくみを少しでも学んでほしい。（参加率の減少）
- 子ども同士で先輩後輩の関係を学んでほしい。
- 地域の人に顔と名前を覚えてもらえる事はいろいろな面で良い事だと思う。
- 覚えてもらい声をかけて頂くことで登下校時，見守ってもらえている気がする。
- 地域の行事に行くのを面倒くさがり参加しない。
- 異年齢交流は良いと思うが，知らない大人に対しては打ち解けるまでにかなり時間が必要だ。
- 役員の負担が大きい，ボランティア精神だけでは地域のつながりは希薄になっていく。
- 子ども達が企画し協力し成し遂げるような行事が少なくなった。
- 地域行事は，自主性，協調性など多くの力が養われる場なので大切にしていきたい。
- 行事に参加することで，地域で生きていることを実感する。（ちょっとした緊張感が良い）
- 地域の方とのふれあいの場は，昔に比べて減っているので少し残念です。

情報提供：（H26）建昌小

一日一善 ～全校朝会における校長講話～

- | | |
|--------|-------------|
| ○ 学 年 | 全学年 |
| ○ 内容項目 | 愛校心・助け合い・感謝 |



今日は、「一日一善」ということについてお話をします。6年生の卒業式までの登校日は，100日を切りました。そこで，6年生は一日一善の活動として，「お手伝い隊」をスタートさせています。自分たちで，気づき，考え，学校をきれいにしようというプロジェクトです。6年生だけでなく，皆さんも一日一善にもっと取り組んでいきましょう。何かお手伝いをすることだけでなく，友だちに「おはようございます。」と大きな声であいさつをすることや笑顔で応えることも，りっぱな一日一善です。一日一善を行なうと，とてもさわやかな気持ちになります。そして，「ありがとう。」と言ってもらえると，もっといい気持ちになります。一日一善には，いろいろなやり方があります。

今日という日は，二度と帰ってきません。今日という日を，素適な思い出の一ページにするために，これからも，一日一善に，毎日みんなで取り組んでいきましょう。

情報提供：（H26）山田小

ふるさとを知り、ふるさとを誇りに思う子どもに

具体的な働きかけ



神社の清掃活動



遠足における掛橋坂散策

- ◆ 自然豊かな西浦校区には、校区の入り口にある神社に大きなイチョウの木がある。このイチョウの木は、校区のシンボルのようにもなっている。秋には神社の庭が黄色の絨毯で敷き詰められたようになる。毎年この時期に子どもたちは掃除に行ってふるさとを大切にする心を育てている。
- ◆ 掛橋坂という石畳の道がある。龍門司坂や白銀坂と並んで、始良市の貴重な史跡でもある。物資を運ぶために通る道として作られ、利用された。重機などの機械がない時代に作られた建造物。遠足で訪れ実際に歩いてみて、昔の人の苦労を忍ぶとともに、このような素晴らしい史跡のあるふるさとを誇りに思う子どもに育てて欲しい。

情報提供：(H26) 西浦小

あいさつ 「語先後礼」の地域での実践

具体的な取組



本校では、生徒指導とキャリア教育の視点より礼法指導に力を入れており、あいさつは「語先後礼」のルールに従い実践している。

写真はテニスコートの整備をしてくださった業者関係者へ男女ソフトテニス部の部員がお礼を述べているところである。

校内ではもちろんのこと、学校外の地域でも元気なあいさつを実践し、地域を元気付けられるように呼びかけており、部活動の対外試合等でも感謝の気持ちを持ち、あいさつ等の礼儀を尽くすことを徹底している。

その成果として、地域の方から「毎日、登下校時に元気な声であいさつしてくれて嬉しいです。」「生徒さん方の元気な声が聞きたくて、毎朝、家の前を掃除しています。」など、ありがたい電話をいただいたり、各種外部関係者との会合でもお褒めの言葉をいただいたりしている。

情報提供：(H26) 帖佐中

ルールやマナー マナー日本一への挑戦



具体的な取組

本校では、全校生徒の4割程度が自転車通学生であり、300名を超える自転車通学生が毎日登下校しているが、学校周辺の歩道は狭く、拡張工事の見通しも立たない状況である。そのため、生徒の行動の如何によっては地域の方々の迷惑になるばかりではなく、大きな事故にもつながりかねない危険性をはらんでいる。写真は、毎年年度始めに実施する交通安全教室後の下校指導の様子であり、自転車に乗ってよい範囲や押し

て歩く場所、信号を待つ場所など、細かく規定してあるルールを現地で確認している。

このようなルールやマナーを守る態度は、毎年下級生に引き継がれており、これまで命に関わるような大きな事故の発生はない。地域の方々からも「横断歩道では自転車を降りて押して渡る姿が素晴らしい。」「一列になって通学し、ヘルメットも全員が付けていて感心します。」など、ありがたい声が聞かれる。今後も事故防止とともにマナー日本一を目指し、指導を徹底していきたい。中学生がいずれは自動車を運転するドライバーになるのだから。

情報提供：(H26) 帖佐中

生命の尊さについて考える ～命のふれあい教室～



具体的な働きかけ

中学生期は、自我の芽生えとともに、家族の愛情不足を感じたり、自分の存在について否定的に捉えたりすることもある。本校では、「命のふれあい教室」に合わせて「生命の尊重」について道德の授業を行い、その後に「命のふれあい教室」を実施することで、一層道德的実践力の育成を図っている。

「命のふれあい教室」は、始良町の時代から、行われてきた取組である。保健師・助産師の方々が直接生徒に、生命の誕生や出産について、本の読み聞かせやスライドを用いて話したり、妊婦体験や赤ちゃんの抱き方体験等を行ったりして、「命の尊さ」について考え、自己肯定感を高め、自他の生命を大切にする心と態度を養っている。

保護者からの手紙

14年前、心身共に苦しい思いをしながら、〇〇を産みました。現在まで本当にあなたがいてくれて幸せです。(中略) 〇〇の何事にも前向きにチャレンジする姿が大好きです。〇〇は私の自慢の娘です。何があっても、私は〇〇の応援団長です。ずっとずっと応援し続けるからね。

生徒の感想

私が4年生の時に、お母さんのお腹の中に赤ちゃん(弟)がいました。その時、お母さんは毎日とても大変そうでした。なので、この学習をして、改めて妊婦さんの気持ちや生命誕生の素晴らしさを知ることができました。これからは妊婦さんを見かけたら、電車で席を譲ったり、お手伝いできることはないか、しっかり気持ちを考えながら生活したいと思いました。

情報提供：(H26) 重富中

地域との連携 ～農業体験学習～



子どもの反応

地域で行われている「山田の里かかし祭り」にも、地域の方々とのかかわりの中、毎年参加している。

具体的な取組

始良市役所農政課の協力の下、校区に住む方に、田んぼの提供や期間中の手入りをボランティアで協力していただき、今年で20回目を迎えた。

6月に田植え、8月に除草、10月に稲刈りを体験して農業の楽しさや大変さを学んだ。

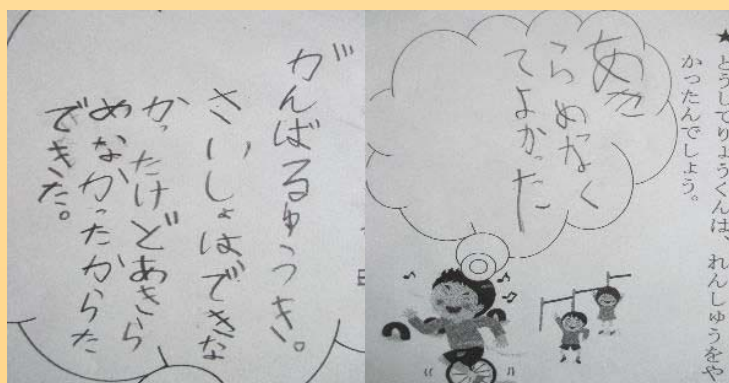
米迫さんに農業についての思いなどをお話ししていただいた上で活動に取り組み、意欲の向上や学習の深まりがみられるようになった。

情報提供：(H26) 山田中

写真で語る道徳教育の実践事例 (教師力ブラッシュアップVol.2)

道徳の時間における取組 編

自己を見つめ、自他とのがかりを深める中で道徳実践力をはぐくむ道徳の時間の指導の在り方 ―表現活動の工夫(役割演技)―



- 学 年 第1学年
- 内容項目 1-(2) 勤勉・努力
- 資料名 りょうくんとーりん車

子どもの反応

- ◆ 役割演技を行ったことで、主人公がくじけそうになった時に、友だちの励ましもあり、頑張ろうと再度決意した場面の心の葛藤をクラス全体で共有できた。また、ワークシートに記述していなかった即興的な考えも多数出た。

具体的な働きかけ

- ◆ 自分の考えを深めたり、自信をもって発表させたりするために、ワークシートを活用し、中心場面の主人公の気持ちと、主人公が弱い心に打ち勝ったわけを書かせた。そのうえで、主人公の気持ちに共感できるようにするために、役割演技を行い、表情絵や心のものさしを用いて全員が主人公の気持ちを考えられるようにした。

ちょっと一言

- ◆ 役割演技をする児童はもちろん、見ている児童にも気持ちを考えさせるために、表情絵を使ったり、代表して発表する児童の表情の変化に注目させたりすることが大切だと感じた。また、ペア活動をさせるのも効果的だと感じた。

自己を見つめ、道徳的価値を深める道徳の時間 ～表現活動の工夫（役割演技）～



- 学 年 第2学年
- 内容事項 1－(3) 勇気
- 資 料 名 「水の公園」

子どもの反応

- ◆ 役割演技を通して、上級生に注意することは、怖いのにそれでも注意したのは、勇気のいる行動であるし、相手のことを思いやる気持ちが心の中にあることに気付くことができた。

具体的な働きかけ

- ◆ 中心場面の主人公の気持ちを子どもたちに考えさせるため、ワークシートを活用した。さらに、自分が考えた気持ちと主人公の勇気を振り絞るときに表れる行動を体験させるため、役割演技を行った。役割演技の際は、子どもの表情や動きにも注目させた。

ちょっと一言

- ◆ 特に低学年の場合は教師が演技者の一人が入ったり、インタビューをする側に回ったりして、役割演技に積極的に入っていく必要がある。そうすることで、子ども達の思考を整理し、価値を深めるための役割演技につながっていくと考えられる。

情報提供：(H26) 柁城小

「個人内めあて」の設定の工夫



- 学 年 第3学年
- 内容項目 3－(3) 敬虔
- 資 料 名 幸福の王子

子どもの反応

- ◆ 「美しい心とは、どんな心なのだろう。」や「美しい生き方とは、どんな生き方なのだろう。」、「美しい友情とは、どんなものなのだろう。」などの「個人内めあて」が出され、全体のめあてとして、「美しいとは、どんなことなのだろう。」が設定された。

具体的な働きかけ

- ◆ 授業の導入場面において、自分にとっての「美しい」について考えさせ、本時に自分が考えたいことを「個人内めあて」として設定させた。

ちょっと一言

- ◆ 導入場面において、「美しいもの」には、どんなものがあるのか考えさせた。「美しい花」や「きれいな絵」など、様々な意見が出された後に、「道徳の時間に考えたい『美しい』にはどんなものがあるでしょう。」と発問することで、子どもたちは、「個人内めあて」を設定しやすかったようである。

情報提供：(H26) 柁城小

魅力ある道徳の時間を目指して ～話し合い活動の工夫～



- 学 年 第4学年
- 内容項目 2－（2）思いやり・親切
- 資料名 「心の信号機」

子どもの反応

- ◆ 「助けたい」（困っているはず・今、行動しないと後悔する）「どうしよう」（はずかしい・余計なお世話かも）で心が揺れた。
助けてあげることが、大切なことだと分かっているのに、声をかけるという行動に、なかなか移せない「ぼく」の心の弱さに共感することができた。

具体的な働きかけ

- ◆ ワークシートに書かせたあと、相手を求め自由に意見を交流させた。ワークシートに短い言葉を書かせることで、相手から「どうしてそう思ったのか」尋ねられることから根拠を述べなければならず、そこに自然と対話が生まれた。
- ◆ グループで意見を交流させる場合は、考えを1つにまとめず、「グループにはあAと言う考え方とBという考えがありました」と、整理させるようにした。

ちょっと一言

- ◆ 同じ「悲しい」という気持ちは、一緒でも、その理由がちがっていて、多様な意見を交流させることができる。
- ◆ ネームプレートを黒板に張り、分類し意見を交流させながら、話し合わせるやり方も効果的であった。

情報提供：（H26）柁城小

話し合い活動の工夫



- 学 年 第5学年
- 内容項目 1－（4）誠実・明朗
- 資料名 「手品師」

子どもの反応

- ◆ 「大劇場に行く」「男の子との約束を守る」のどちらかの立場で話し合いに参加し、友達の意見を聞いていくうちに、「誠実・明朗」の価値に気付き、自分の立場を変えて考えを再構成できた子どももいた。

具体的な働きかけ

- ◆ 自分の考えに自信をもったり、友達の考えをもとに自分の考えを再構成したりするために、グループで話し合い活動を取り入れた。より多様な考えに触れ、質問や意見を交換しやすくするために、立った状態で近くに寄って話し合うスタンディングミーティングを行った。ミーティング後に、自分の考えを再構成させ、ワークシートに書かせた。

ちょっと一言

- ◆ 「手品師」は葛藤場面が明確であるため、子どもたちの話し合いは大変活発だった。グループでの話し合い活動が必要かどうかは、資料分析をしっかりする必要がある。

情報提供：（H26）柁城小

他者との交流から自己を振り返る中で、道徳的实践力を育む指導の在り方 ～グループでの交流活動を通して～



- 学 年 第6学年
- 内容項目 1－(1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制
- 資料名 「情報化社会に生きる」

子どもの反応

- ◆ 中学校入学を間近に控えた6年生であり、携帯電話に対する興味・関心が高い。携帯電話の使い方の問題点や、正しい使い方をグループで話し合い、ルールを作る大切さに気付いていた。

具体的な働きかけ

- ◆ 自分のこととして考え、意見を明確にもたせたり、深めさせたりするために、ワークシートを活用し、登場人物の携帯電話の使い方や、会話文に空欄を設け、記入させる活動を行った。そのことで、なぜ間違った携帯電話の使い方をしてしまったのかを考えさせることで、問題点に気付かせることができた。

ちょっと一言

- ◆ 正しく携帯電話を使うための、ルールについて考え、それを交流させることで、自分と友達の意見を比較し、自分の考えを見直すことができていた。さらにグループで、子どもたちが活発に意見交流できるよう、日頃の学習におけるグループ活動の積み重ねが大切であると感じた。

情報提供：(H26) 柁城小

「不屈の心」を活用した道徳の時間～2年生における実践～



授業実践後の感想

- 資料を事前に読んで感想をもたせることで、2年生の児童なりに今村明恒という人物について把握できていた。しかし、内容理解については個人差があるため、主人公のおかれた状況や主人公の行為などについて黒板に構造化したり、心情を追究するために表情絵を提示したりした。それによって児童の道徳的価値理解を深めることができた。

- 学 年 第2学年
- 内容項目 1－(3) 勇気
- 資料名 『「ホラふき」と呼ばれても』

具体的な働きかけ

『不屈の心』活用ポイント

- ① 事前に「苦勞が分かる」「すごいな」などの観点で読ませておく。
- ② 「防災」を「避難訓練」に言い換え、学年の発達段階に対応させる。
- ③ 場面は考えさせるところのみ3つほどに絞る。
- ④ 低学年では、表現活動等を入れて五感で考えさせる。

情報提供：(H26) 建昌小

展開・終末での道徳性の育成を図るための工夫



- 学 年 第2学年
- 内容項目 4ー(5) 郷土愛
- 資 料 名 「この町がすき」

具体的な働きかけ

【付箋を使って】

- ・ 終末では、自分たちの町のよいところを子どもたち一人一人に付箋に書かせ、黒板に貼らせた。学級全員分の付箋が集まると、自分たちの町にはこんなによいところがあるのだと気付くことができていた。また、集まった付箋を分類して貼っていくことで、様々な視点で自分の町のよさを児童に考えさせることができたようにした。

【グループでの話し合い】

- ・ 展開では、個人で考えた後、グループで自分の考えを話し合わせる時間を設定した。そうすることで友だちと自分の考えの似たところや違うところに気づくことができた。また、普段は全体の場ではなかなか発表できない子も、友だちに自分の考えを伝え合うことができていた。



情報提供：(H26) 建昌小

「不屈の心」を活用した道徳の時間～3年生における実践～



- 学 年 第3学年
- 内容項目 1ー(5) 個性の伸長, 向上心
- 資 料 名 「楽しみ発見の心」

具体的な働きかけ

『不屈の心』活用ポイント

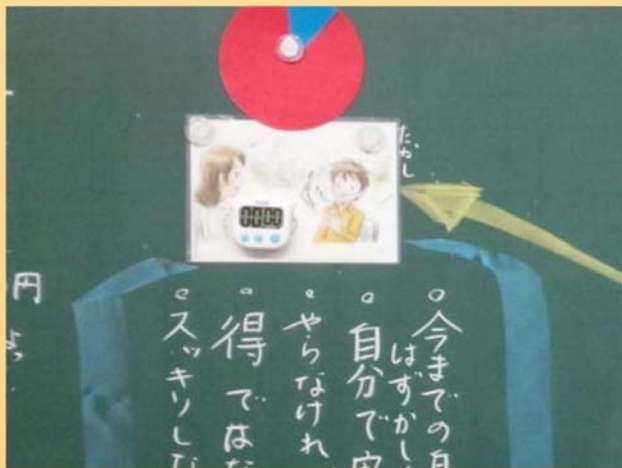
- ① ドラえもんの認知度の高さを利用して興味関心を高めるようにした。
- ② 主人公の場面絵が少ないので、市販の表情絵を活用して心情の変化を捉えさせた。
- ③ 展開後半は「私たちの道徳」を活用することで自分の生活につなげることができる。

授業実践後の感想

- 資料を事前に読んで感想をもたせることで、2年生の児童なりに今村明恒という人物について把握できていた。しかし、内容理解については個人差があるため、主人公のおかれた状況や主人公の行為などについて黒板に構造化したり、心情を追究するために表情絵を提示したりした。それによって児童の道徳的価値理解を深めることができた。

情報提供：(H26) 建昌小

円グラフを活用して自分の考えを明確にする指導方法の工夫



○ 学 年	第5学年
○ 内容項目	1ー(1) 生活習慣
○ 資 料 名	「早起きは三文の徳」

具体的な働きかけ

【赤青の円グラフ】

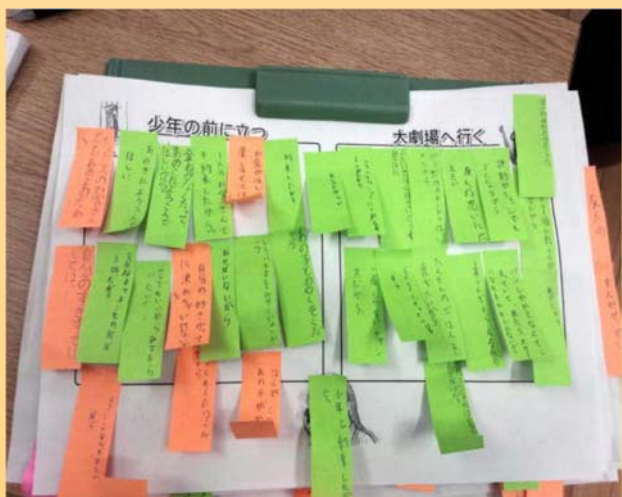
- ◆ まず、早起きは三文の徳の意味を主人公が理解できたかどうかを円グラフで表す。
- ◆ 次に、円グラフの色の割合の根拠を文章化する。
- ◆ 最後に、ペアでお互いの考えを聞き合い、主人公の心情の変容をつかみ、早起きの意義を理解する。

授業実践後の感想

- ◆ 円グラフを活用することによって、主人公の「早起きは三文の徳」の理解度を明確に表すことができ、心情の変化を視覚的にとらえることができた。
- ◆ 一人一人が円グラフを手にとって理解度の割合を表すことで、主人公の気持ちを容易に文章化することができ、グループ討議に役立った。

情報提供：(H26) 建昌小

付箋紙を活用して、考えを広げたり深めたりする指導方法の工夫



○ 学 年	第5学年
○ 内容項目	1ー(4) 誠実・明朗
○ 資 料 名	「手品師」

具体的な働きかけ

【一人一人の考えを引き出す工夫】

- ◆ グループごとに考えを出し合う学習の中で、一人一人が考えを付箋紙に書いて貼り出す活動を設定した。その後、お互いの考えを分類したり整理したりしながら自分の考えを価値づけたり、新しい考えを自分の中に取り込んだりすることができた。

授業実践後の感想

- ◆ 付箋紙に自分の考えを書き、それをもとにグループで交流したので、自分の考えに自信をもつとともに、考えがより深まった。
- ◆ 全体での話し合いでも活発な意見交換がなされ、新たな解決策を考えつく子どもまで見られた。
- ◆ 普段なかなか意見が言えない子どももこの方法だと考えを複数出すことができた。

情報提供：(H26) 建昌小

写真や映像を活用して主題に方向付ける指導方法の工夫



- 学 年 第5学年
- 内容項目 3ー(1) 生命尊重
- 資 料 名 「だくうでに力を」

具体的な働きかけ

【写真や映像の活用】

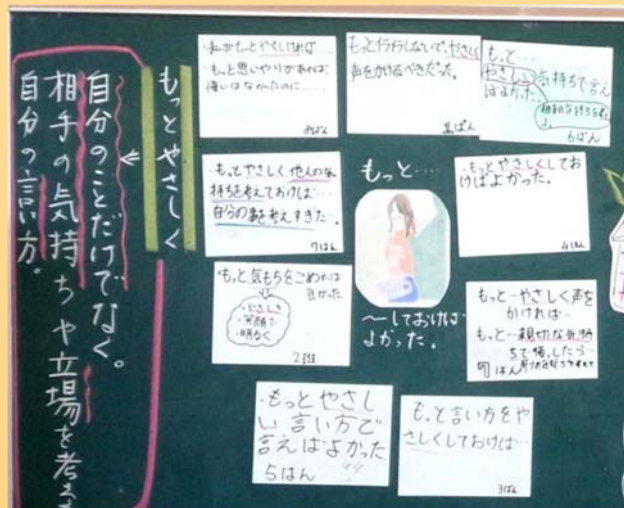
- ◆ 本主題の中心資料は、鹿児島県で起きた「8・6水害」が題材になっており、そのときの災害状況や人々の混乱を知らない児童が多い。そこで、写真や映像(放送局のドキュメンタリー映像)を活用することで、生命の危機が迫る中での人々の支え合いの大切さを、臨場感をもって考えさせるようにした。

授業実践後の感想

- ◆ 自分たちにとっても身近なところで起きた災害の映像を使用したので、どの子も息をのんで食い入るように見ていた。その上で、読み物資料で支え合って生きることについて話し合ったので、子どもたちは臨場感をもってそれぞれの意見を発表していた。

情報提供：(H26) 建昌小

グループごとの話し合いを活用した指導方法の工夫



- 学 年 第5学年
- 内容項目 2ー(2) 思いやり・親切
- 資 料 名 「思いもよらぬ出来事」

具体的な働きかけ

【グループでの話し合い】

- ◆ グループで話し合う活動は、一人では考えが広がったり深まったりしにくい場合に活用することが有効である。

本主題では、主人公の後悔をグループで話し合うことで、親切について相手の立場や気持ちを考えることの大切さに気付かせるようにした。

授業実践後の感想

- ◆ 一人で考えるよりも、友達と話し合うことによって積極的に考えを聞いたり出したりしていたのが印象的だった。
- ◆ 各グループの考えを黒板にあげた上で全体で話し合うことで、多様な考えに気づき、話し合ってまとめることができた。

情報提供：(H26) 建昌小

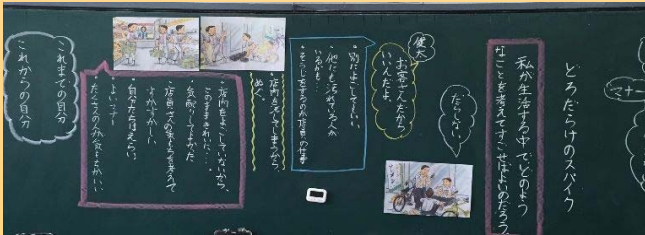
道徳的实践力を高めるための工夫



- 学 年 第6学年
- 内容項目 4ー(1) 公徳心・規則の尊重
- 資 料 名 「どろだらけのスパイク」

具体的な働きかけ

- ・ 登場人物の心情の変化を視覚的にとらえることができるよう板書の工夫をした。
- ・ ワークシートに書かせる時間を十分に設定し、それをもとにグループでの話し合い活動を行わせた。
- ・ グループ活動を設定することにより、他者の考えを知ること、考えを広げたり深めたりできるようにした。



子どもの反応

- ・ じっくりとワークシートに書く活動に取り組み、主人公の心の葛藤を考えていた。
- ・ 終末では、これまでの自分の行動をふりかえり、他人ごとではなく自分のこととしての考えが書かれていた

情報提供：(H26) 建昌小

思いやりの心を持ち、よりよく生きようとする子どもの育成 ～自己の生き方を見つめる道徳授業をめざして～



- 学 年 第3学年
- 内容事項 2ー(3) 友情・信頼、助け合い
- 資 料 名 「絵葉書と切手」

具体的な働きかけ

- ◆ 児童が、母と兄の意見の中で迷っている主人公の気持ちを想像しやすいように役割演技を取り入れる。
- ◆ ワークシートの吹き出しに自分の気持ちを書くことで思考を深めることができるようにする。

子どもの反応

- 役割演技を見ている児童にも自分は 兄と母のどちらの考えか発表させることで、積極的に授業に参加できていた。

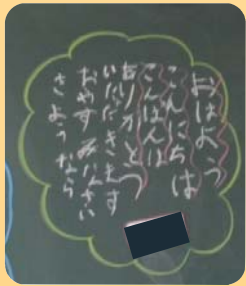
ちょっと一言

- 主人公の気持ちの変化が意識できるよう BGMを使った範読を聞かせると効果的だった。

情報提供：(H26) 山田小

思いやりの心を持ち、よりよく生きようとする子どもの育成 ～自己の生き方を見つめる道徳授業をめざして～

- 学 年 複式第1・2学年
- 内容事項 2ー(1)礼儀
- 資 料 名 「たびに出て」



「ありがとう」は？



どんなあいさつしよう。



あいさつを3つ決めて実行しよう。できたら色をぬりましょう。

具体的な働きかけ

- ◆ 学校で取り組んでいる、「オアシス運動」を取り上げ、いろいろな「あいさつ」があることに気付かせた。
- ◆ できるようになりたいあいさつについて、家庭でも実践できるように、親子で考えるようにした。

ちょっと一言

- ◆ 少人数で多様な考えが出ない実態を踏まえて、保護者も交えた対話活動を設定することで、対話活動が充実した。

子どもの反応

- ◆ あいさつしなくて楽だなと考えていたが、あいさつがないと、「元気がでない。楽しくない。なんか変だ。」とあいさつのよさに気づくことができた。
- ◆ あいさつすることで、みんなが気持ちよくなり、笑顔が増えることにも気づくことができた。

情報提供：(H26) 北山小

相手が嬉しくなる親切をするには？ ～思いやりって何だろう～

- 学 年 第1学年
- 内容事項 2ー(2)思いやり・親切
- 資 料 名 「はしのうえのおおかみ」



具体的な働きかけ

【心をつなげる実践】

- ◆ 子どもたちの思いや考えを保護者の方にも知っていただくために、学習したワークシートを家庭に持ち帰らせて保護者の方からの一言コメントをいただくようにしました。また、教室に掲示し共有を図りました。
- ◆ 学級通信や学年通信を通して、授業の様子や子どもたちの様子を家庭に伝えるようにしました。子どもたちの授業後の感想を紹介することによって、心の成長を感じ取ってもらいました

子どもの反応

- くまさんは大きいのにいばらないし、やさしいし、すごいなあと思いました。ぼくもくまさんみたいな人になりたいです。
- おおかみさんは、最初は意地悪だったけど後にはやさしい人に変身してかっこいいなあと思いました。くまさんのようにやさしくしたら、自分も気持ちがよくなるし、みんなも気持ちがよくなってなかよくなれると思います。
- これからは、お友達に意地悪しないでやさしくしようと思いました。

情報提供：(H26) 始良小

「思いやり」のある子どもの育成 ～道徳授業の実践から～



- 学 年 第1学年
- 内容事項 2ー(2)親切・思いやり
- 資 料 名 「はしのうえのおかみ」

具体的な働きかけ

- ◆ 役割演技を取り入れ、話し合い活動を行い、いじわるをしているときの気持ちと親切にしたときの気持ちを比較して、親切にしたときの方がよい気持ちになることに気付かせる。

ちょっと一言

- ◆ 心から感謝の気持ちを込めて「ありがとう」と発することができるためには、常に感謝することを意識しておく必要がある。
 - ◎ プリント配るとき、「はい、どうぞ」、「ありがとう」
 - ◎ 給食室では、「おいしい給食をありがとうございます。」
- より深く道徳的な価値を高めることができる。**



- ◆ 友達の優しさをたくさん発見させる。思いやりカードで感謝の気持ちを伝えよう。

情報提供：(H26) 始良小

相手が嬉しくなる親切をするには？ ～思いやりって何だろう～



思いやりの勘違いが対比して視覚化できるように



- 学 年 第2学年
- 内容事項 2ー(2)思いやり・親切
- 資 料 名 「公園のおにごっこ」

具体的な働きかけ

- ◆ 親切な行動をした時に相手がよい感情をもたなかった時の心情を発表させ、それらの矛盾から問題意識を持たせた。
- ◆ 資料を読む前に、登場人物や場面などを簡単に説明し、自分だったらどうするか考えさせ、「てかげんをする」＝「親切」であるということを抑えることで、「資料の人物も同じようなことをしていた」と自分を同化させる・重ねることができるようにした。
- ◆ 「ゆうたに、おにをさせたらかわいそうだ」というしんじの気持ちと、「おにになって、みんなと同じように遊びたい」というゆうたの気持ちに対比し、しんじがやさしさを履き違えていることに気付きやすいような板書を心掛けた。

情報提供：(H26) 始良小

自分の心に真っ直ぐに向き合おう ～「わたしたちの道徳」の活用～



ボール投げ
をしていて、ガ
ラスをわって
しまった。

〈心のつながき〉



- 学 年 第3学年
- 内容事項 1ー(4)反省、誠実・明朗
- 資 料 名 「ガラスの心」

具体的な働きかけ

＜授業の展開＞

- 1 資料「ガラスの心」の3つの事例につ
いて討論する。
- 2 「わたしたちの道徳」P38「素直な
心」「素直になれない心」について考え、
P39を記入する。(左が児童の記述)
- 3 今までの自分を振り返って、考えたこ
とをノートに記入し発表する。

子どもの反応

- ◆ おこられる自分は「情けない」そう
思う。なぜおこられたか、それは自分
が正しいと思ったことをしなかった
からです。

〈正直に言えない心〉

(こちらが勝つと)

- ・ ばれたらどうしよう。
- ・ 心がすっきりしなくてずっと
嫌な気持ちがたまってしまう。
- ・ 最初はいいけど、最後は後悔
が残って嫌な気持ち。
- ・ ずっと心がモヤモヤする。
- ・ いつまでもしたことが残って
しまう。
- ・ このまま隠していけるかな。

〈正直に言おうとする心〉

(こちらが勝つと)

- ・ ああ、すっきりした。今
度から注意しよう。
- ・ おこられるけど、言わな
いよりいいや。
- ・ ずっと逃げていてもモヤ
モヤする心が消えないか
ら言ってよかった。
- ・ ちょっとだけ勇気を出し
てよかった。

情報提供：(H26) 始良小

家庭との連携を意識した道徳教育について

具体的な働きかけ

- ◆ 第4学年では、『半成人式』という行事もあり、総合的な学習の時間でも自分を見つめ直し、家族の大切さを実感する時間が設けられている。
- ◆ そこで、1年間を通して家族の大切さ・自分の大切さを考え、実感させたいと考えた。また、子どもと家庭の実態、教師の願いから4月に設定した「めざす子ども像」に少しでも近づけるために、家庭との連携を意識した計画を立て、実践を進めた。

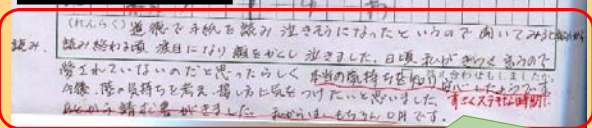
- 学 年 第4学年
- 内容事項 4ー(3)家族愛
- 資 料 名 「お母さんのせい求書」



ちょっと一言

- ◆ 保護者の協力のもと、子ども達への手紙を書いてもらった。資料から、現実の自分のこととして実感することができた。

家庭との連携



- ◆ この日の宅習帳の欄に、保護者から反響の手紙が書かれていた。『日頃私がきつく言うので愛されてないのだったと思うらしく、本当の気持ちを知り安心したそうです。』(一部抜粋) 家庭でも、道徳の話題になり更に気持ちを深めることのできた児童もいた。



子どもの反応

- ◆ 子ども達はお母さんだけでなく、『家族』を意識して考える事ができた。

情報提供：(H26) 始良小

いじめや人権、仲間づくりを考えさせる

○ 学年 第6学年 ○ 内容事項 2ー(2)思いやり・親切 ○ 資料名 人権読本「ひらく」

過程	主 な 活 動	留 意 点
導入	1 体つきや容姿など、自分のことで悩んでいることはないか話し合う。	○ 投げかける程度で済ませる。
展開	2 教材を読んで、早紀さんの気持ちを考える。 3 早紀さんの気持ちを聞いたクラスのみんなはどうしたかを考える。	○ 早紀さんの思い、早紀さんが仲間と共に立ち上がっていく様子や姿について考えさせる。 ○ 本当の仲間とはどんなものかを考えさせる。
終末	4 自分たちのクラスについて話し合う。 	○ お互いの悩みを出し合う関係になっているか、自分やクラスのことを考えさせる。 ・ きちんと聞いてあげたい。 ・ 勇気を出せば、言いたいことを言えるクラスになってきている ・ 相手のことを思って行動する人がまだ少ない。 ・ このクラスにも分かってくれる人がいる

<事前事後の関連活動>

みんなで遊ぶ日の活動やグループエンカウンターを通して、互いの関わり方を考えさせる。

情報提供：(H26) 始良小

実践への意欲化をねらって：学校主事さんの説話



○ 学 年 第2学年
○ 内容事項 4ー(4)愛校心
○ 資 料 名 「くろいわのおじさん」

具体的な働きかけ

- ◆ 広げる段階(授業の終末)で、主事さんにお話をしていただいた。普段、どのような仕事をしているかを話された後、「みんなの笑顔を力に、お仕事をがんばっています。だから、意地悪やけんかをしないで仲良く過ごしてほしいです。」と締めくくられた。

子どもの反応

- ◆ 資料に主事さんが出てきていたので、本校の主事さんが来てくれただけで、子どもたちは喜び、笑顔でお話に耳を傾けていた。
- ◆ また、「ありがとうの思いを伝えたい先生はいませんか。お手紙を書いてみようか。」とその日の宿題に出したところ、主事さんだけでなく、養護教諭や給食技師さん、図書室の先生などにお手紙を書き、渡すことができた。

用いんの岩きさんへ
岩きさんは、あまからわたがしをくれた
あとまでそうじやおかげで草とりをします。
きれいな花をだててくれます。
いつもありがとうございます。
それから、お花をかんをしてくれま
す。お花もきれいな花をそだて
ください。
そして、電気のこうかんのときに
けかをしないように気をつけてく
ださい。
いつもありがとうございます。

情報提供：(H26) 西始良小

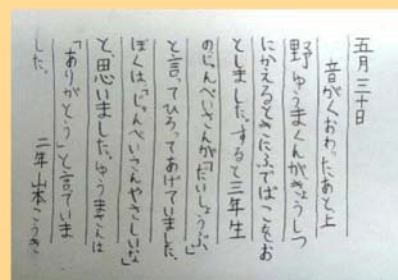
実践への意欲化をねらって：他の学年の手紙

○ 学年 第3学年 ○ 内容事項 2ー(2)思いやり・親切 ○ 資料名 「新幹線」



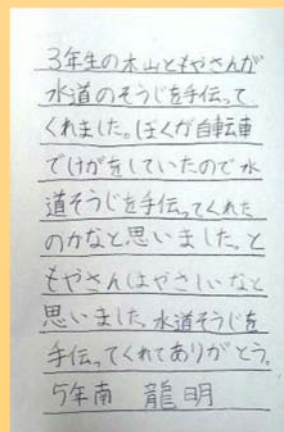
具体的な働きかけ

- ◆ 「広げる」段階（授業の週末）で、相手を思いやる言葉や行動で嬉しい気持ちになった他の学年からの手紙を読み、意欲を高めた。



子どもの反応

- ◆ 全校で取り組んだ「にこにこぶしの木」で、他の学年の友達が、自分の学級の友達のように気付いてくれていることに喜び、笑顔で耳を傾けていた。また、助けられることだけでなく、助けている自分にも気付くことができた。
 - ・ 困っている人に「どうしたの？」と声をかけたい。
 - ・ 友達じゃなくても、困っていたら話しかけたい。



情報提供：(H26) 西始良小

自分に対する目に見えない心遣いに気付かせる場の工夫



話し合い活動

見えない心遣いに気付いた金次郎は
今、何を考えているのかな。

○ 学年 第3学年
○ 内容事項 2ー(2)思いやり・親切
○ 資料名 「新幹線」

具体的な働きかけ

- ◆ 周囲の人々の、自分に対する目に見えない心遣いに気づき、感謝する心を育てることをねらいとした。
- ◆ 主人公の心情の変化を追求させる際、まずワークシートに自分の考えを書かせてから、その考えをより広げさせたり深めさせたりするために、話し合い活動を取り入れた。授業の終末では、「自分たちを『見えない心遣い』で支えてくれている存在について具体的に考えさせた。より多様な考えを引き出させるために、友達と話し合いながらカードに記入させた。



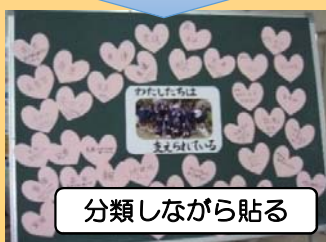
支えられていると考える人をカードに記入

子どもの反応

- ◆ あらためていろいろな人に支えられているんだなあと思いました。私の周りには、まだ気付いていない感謝があるだろうから、気付けたらいいです。私もその人たちに恩返しをしたいと思います。そして、人から感謝される人になりたいです。

実践の感想

- ◆ グループで互いの意見を交換し合う中で、自分と友達との意見の共通点と相違点に気付くとともに、考えを広げたり深めたりすることができた。クラス写真の周りにカードを分類して貼らせることで、いろいろな人に支えられていることを視覚的に訴えることができた。



分類しながら貼る

情報提供：(H26) 西始良小

広げる活動（授業の終末）の工夫：『私たちの道徳』の活用

○ 学年 第5学年 ○ 内容事項 4―(2)公平・公正、正義 ○ 資料名 「愛の日記」



具体的な働きかけ

- ◆ 「広げる」段階で、『私たちの道徳』に掲載してある「みんな同じ かけがえのない一人の人間」という詩を大型テレビに映し出しながら、朗読した。

子どもの反応

- ◆ 何も言わずに画面を見せ、文を読み始めたため、子どもたちは少し驚いた様子であったが、詩の内容を理解するにつれて学習の振り返りができたようであった。余韻をもたせることができたように思う。

情報提供：(H26) 西始良小

郷土の先人の功績から学ぶ ～「不屈の心」の活用例1～



具体的な働きかけ

- ◆ 鹿児島県教育委員会刊行「不屈の心」を活用した道徳の指導の様子。
学年全体でプロジェクトチームを作り、学年全職員で取り組んだ。
「不屈の心」は、読み物資料としての性格上、道徳の資料としてはやや長文であるため、文章を見直し、7分程度で読めるよう内容の検討を行った。また、範読CD作成、現地調査（薩摩川内市）等を行い、より資料の収集と効果的な授業の展開に努めた。
左の写真は、小野神社にある石碑を提示し、登場人物の気持ちに共感させている場面である。
また、話し合いとともに、自分をみつめ、思いを文章で記述している生徒の個別支援を行っている場面である。生徒は笑顔を見せたり、普段なかなか自分の意見を発表できない生徒が自ら進んで発表したりするなど、和やかな雰囲気の中で学習を進めることが出来た。

情報提供：(H26) 加治木中

郷土の先人の功績から学ぶ ～「不屈の心」の活用例2～



具体的な働きかけ

- ◆ 本校校区に縁のある椋鳩十先生を素材とした道徳の指導の様子。

学年全体でプロジェクトチームを作り、学年全職員で取り組んだ。

「伝えたいこと」は、読み物資料としての性格上、道徳の資料としてはやや長文であるため、文章を見直し、7分程度で読めるよう内容の検討を行った。また、範読CD作成、国語科との連携等を行い、より資料の収集と効果的な授業の展開に努めた。

生徒にとって身近な先人である椋鳩十のエピソードは共感しやすい素材である。

また、本校は毎年全校で椋鳩十読書感想文に取り組んでおり、より積極的に読書感想文を書くことが出来た。

左の写真は、椋鳩十に渡された「念け賃」についてグループで意見を発表し合う場面である。生徒は、笑顔を見せながら自分の意見を述べ合うことが出来た。

情報提供：(H26) 加治木中

郷土の先人の功績から学ぶ ～「心をつなぐ物語」の活用例～



具体的な働きかけ

- ◆ 本市が作成した読み物資料「心をつなぐ物語」を活用した道徳の指導の様子。

小学生を対象とした資料であるが、高学年用資料「大クスとともに」は、中学1年生でも活用できると考え、授業を計画した。

本学級は、校内総合文化祭で、加治木町の伝統行事である「太鼓踊り」に取り組む。そこで、この資料を用いることで、より自分たちに身近なこととして共感できた。

左の写真は、昨年度の太鼓踊りの動画を提示し、学習への興味関心を高めている場面である。

本学習を通して生徒は、自ら積極的に太鼓踊りに取り組むことが出来た。

また、太鼓踊りに込められた先輩方の思いや地域の人々の願いを考えて取り組み、自らも後輩へ伝えていこうという心を持つことが出来た。

下の写真は太鼓踊り披露当日の様子である。

情報提供：(H26) 加治木中

自己の生き方に誇りをもつ ～誠実な生き方とは～

具体的な働きかけ



生徒の感想

歌詞に出てくる男性の一途な反省や「償い」はすごいと思った。自分がそうになったとき、こんなにできるかどうかかわからないけど、これからは自分の行動に責任をもって生活したい。

人間の持つ心の弱さや醜さを自分の問題として捉えさせる一方、人間はそれを克服する強さや気高さを持っていることに気づかせ、人間としての生きる喜びや誇りを持って生きることの大切さを自覚させることは重要である。ところが、これらの道徳性や道徳的実践力の育成は、なかなか難しいものである。そこで、インパクトのある資料の活用を図り、視聴覚映像等を用いて、生徒に深く理解させ、日頃の教育活動の中で、地道に指導していくことが肝要である。

今回の資料は「償い」という実話をもとにした、シンガーソングライターのさだまさし氏の歌詞である。

平成13年4月、東京都世田谷区で4人の少年が銀行員の男性に対して車内で足が当たったと口論となり、駅のホームで4人がかりで暴行を加え、くも膜下出血で死亡させるという事件が起きた。後日出頭した4人の内、主犯格となった2名が傷害致死罪に問われて逮捕されたが、真に事件に向き合い反省しているかどうか疑問を抱く態度を繰り返していた。

平成14年2月、東京地裁において判決公判が行われ、少年2人に対して、懲役3～5年の不定期実刑が下された。判決理由を述べあげた後、裁判長が2人に対し「唐突だが、君たちはさだまさしの『償い』という唄を聴いたことがあるだろうか」と切り出し「この歌のせめて歌詞だけでも読めば、なぜ君たちの反省の弁が人の心を打たないか分かるだろう」と説諭に用いたという歌である。

情報提供：(H26) 重富中

生徒の価値観を揺さぶり深め内面化を図る手立ての工夫①

具体的な働きかけ



- 学 年 第1学年
- 内容事項 4-(1)規則の尊重
- 資 料 名 「インターネットの向こう側」(法務省チャンネル)

携帯電話やインターネットで起こりうるトラブルとその対策についてドラマを視聴し、そこで学んだことや抱いた感想を記入させる。

また、普段利用している携帯電話やインターネットについての利点や欠点について考える。

生徒の感想

- ・ ネットに悪口を書き込まれるのは、とても怖いと思う。個人情報が出るのも怖い。私は、今まで経験したことがないけど、すごく身近なことなので、これからは気をつけて家族とのルールを守って過ごしていきたい。
- ・ 携帯で悪口などを書かれるととてもいやだなと思いました。一歩間違えるとトラブルに巻き込まれるので気をつけたいです。「コミュニケーションはアナログで」をモットーに面と向かって話したいです。
- ・ スマホやインターネットが便利なものであると同時に怖い面も持ち合わせているのは知っていたけど、具体的にどういうシチュエーションでトラブルなるとかは考えたこともなかったので、今回の授業を機にスマホやインターネットの利用について、改めて考えてみたいです。

情報提供：(H26) 蒲生中

生徒の価値観を揺さぶり深め内面化を図る手立ての工夫②



- 学 年 第1学年
- 内容事項 4ー(4)集団生活の充実
- 資 料 名 エンカウンター ～私の四面鏡～

具体的な働きかけ

自分の良い面や他人の良い面について考えさせ、お互いの意見交換を通じて今まで気づかなかったお互いの良い面を引き出す

生徒の感想

- ・ 自分が自覚していることと、人から言われて気づいたことが両方あった。また、全然思っていなかったことを言われたりしてうれしかった。
- ・ 今まで、他人から見た自分を知りたくても恥ずかしくて聞けませんでした。でもこの機会に他人から見た自分はどんなふうに見られているか分かり、とても良かったです。
- ・ 自分のいいところはなかなかいつも見つからないけれど、この学習をとおして自分のいいところがわかったと思う。また、自分では違うと思っていることも他人から見たらいいところになるんだなと思った。

情報提供：(H26) 蒲生中

取組を紹介いただいた学校

始良市立柁城小学校

始良市立建昌小学校

始良市立山田小学校

始良市立北山小学校

始良市立始良小学校

始良市立西始良小学校

始良市立西浦小学校

始良市立加治木中学校

始良市立帖佐中学校

始良市立重富中学校

始良市立山田中学校

始良市立蒲生中学校

たくさんの取組をご紹介いただき
ありがとうございました。

これからも子どもたちのがんばる
姿をたくさんご紹介ください。



